

埼玉県立鶴ヶ島清風高等学校

Saitama Prefectural Tsurugashima-Seifu High School

令和4年度
第1回 協働教育ネットワーク会議

Report

令和4年6月10日(金)開催

令和4年6月10日(金)に令和4年度第1回協働教育ネットワーク会議(学校評議員会・学校評価懇話会)を開催しました。当日は学校評議員、PTA・後援会代表者、生徒会生徒の学校関係者の皆さんと教職員による鶴ヶ島清風高校の現状と課題、今年度の目標とその実現に向けた様々な取組について、意見交換を行いました。

15時30分から始まった会議では、今年度の「学校自己評価システムシート*1の記載内容に関する学校からの説明を受けて、各委員から御意見と御感想をいただく流れで進行していきました。

以下に第1回協働教育ネットワーク会議で委員の皆さんからいただいた御意見・御感想の一部を御紹介します。



第1回 協働教育ネットワーク会議

学校評議員:新型コロナウイルス感染症により学校は様々な面で苦労したのではないかと。学力面を初め、生徒の人間関係への影響が気になる。

学校評議員:コロナ禍の中でリモート授業にも取り組んでいるが、より実践的なICTスキルを教員が身に付けられるように適切な指導をお願いしたい。

生徒:先生方は慣れない中でリモート授業を実施し、改善の工夫を続けてくれている。学校行事などでの中止や制限が強くなると生徒の不満が高まるが、先生方は見捨てないでいてくれる。

地域代表者:地域参画力の育成に関連して、市民センターとしては部活動での制作物の展示や発表会でのホール利用などで協力ができる。

学校評議員:学校の働き方改革に関しては、学校には膨大な事務仕事があると思われるが、枝葉の部分を簡素化できれば良い。

「目指す学校像」

地域に貢献できる人材の育成

学校評議員:習熟度別授業を魅力と考える中学生が清風高校を希望している。少人数のメリットを生かして授業の工夫・改善ができるとう良い。

学校評議員:生徒一人一人の個性に相応しいコミュニケーション能力の涵養に努めていただきたい。

学校評議員:地域参画力を育成するに当たっては、コロナ禍の中ではあるが奉仕活動などでの地域との交流が不可欠である。引き続き重点的に取り組んでいただきたい。

*1 学校自己評価システムシート

「学校自己評価システムシート」は、年度当初に本校が策定した目標の達成状況や次年度に向けた課題と改善策等に記載したものです。「学校自己評価システム」とは、「目指す学校像」の実現に向けて学校が今年度どのような目標を掲げ、どのように取り組んでいくのかを明確にし、自ら評価を行うことで、学校の教育力の向上を図っていくものです。

「学校自己評価システムシート」に記載している目標体系等は次のとおりです。

*目指す学校像:10年先を見据えた長期目標

*重点目標:3~4年程度の中期目標

*評価項目:重点目標達成に向けた今年度の目標

*具体的方策:評価項目を達成するための方策

*評価指標:方策の達成状況を把握するための指標

校則の在り方について

時代の要請や社会常識の変化等を踏まえ、校則・生徒指導の在り方についての御意見を伺いました。

学校評議員:中学校も頭髪指導に関する悩みは高校と同じようにある。高校入試を考えて指導しているため、高校側が変われば中学校の指導も変わると思う。

学校評議員:グローバルの流れからは、日本の学校の校則は乖離している。生活を規制することにどれだけ意味があるだろうか。

学校関係者:「高校生らしい」という基準が大人と高校生ではギャップがある。地域の目からすると極端な髪型や髪色はイメージがよくない。

生徒:校則は生徒のためにある。生徒の振る舞い次第で校則のラインは変わるもの。

